

婚活難民を救う「おせっかいパワー」 スゴ腕の仲人 縁むすび極意

大手の結婚相談会社などにはない「職人技」の世界だ。婚活に必死なのに「いい人に出会えない!」と半ギレのアナタ。年季の入ったプロたちに、成婚への道のりを尋ねませんか。



三重・四日市 南条千代子さん
全国共通の約書「良縁ニュース」には20~80代の男女のプロフィールが。入会するには、身元や収入を証明する書類提出が必要だ

いきなりぴしゃり。婚活サイトでは得られなかった本音のアドバイスが目が覚めた。私ってゴーマン女だったのね。

昔ながらの手仕事の妙

経済産業省によると、結婚相手紹介サービスの会員数は今や約60万人。これだけいるなら、サクッとカップルが誕生しそうなものだが、反対だ。婚活市場の巨大化が晩婚を招いていると、日高さんは指摘する。

「安易な出会いが氾濫したせいで、次はもっといい人と会えるかもと踏ん切りがつかない。結婚できずに悩む。悪循環です」
埼玉県の開業医ユウヤさん(42)は、日高さんから「とってもしい娘さんだよ」と推された女性と4年前に結婚した。「結婚は2人だけの問題じゃな

いから、親のことまでよく知る仲人さんが安心だ。そう言ってくれたのは、力になりましたね」
都内の公務員フミオさん(46)も成婚。「他の男にとられちゃうぞ」と諭されて気持ちが盛り上がり、プロポーズした。「仲人さんに世話を焼かれ、うざいと思つたことも。でも背中を押してもらえた。よかった」
交際中のカップルには、互いの家族をほめて結婚を意識させる。女性経験が少ない男性には「教を聞かれたらそれなりに」と答えるんだぞ」などと耳打ちし「靴の脱ぎ方にも君は礼儀正しいね」と絶賛し、自信をつけさせる……。「超」がつくおせっかいぶりだ。
そう、これが凄腕の仲人ワザ。成婚報酬を受け取るビジネスに進化したとはいえ、昔と変わらない目配りと気配りで、結婚を引き寄せるのだ。婚活といえばコンピューターによるマッチング会社が隆盛だが、その逆を行くような手仕事の妙である。
だが、引き際は実にあつさり。取材中、「交際をやめたい」という30代女性が現れると、日高さんは相手方に電話して、「一言、「ご縁がありませんでした」それだけ。しがらみはない。全国の消費生活センターに寄

日曜の午後2時。婚活歴2年の会社員キョウコさん(36)は都内のテイルームで落ち合った40代男性を見て、心の中でのけぞった。逆立てたヘアスタイルがハリネズミみたいだ。スーツ姿にリュックついで……。
以前なら「今日のお見合いはアウト!」と即断していた。しかし、微笑んで言った。「お会いする時間をいただき、ありがとうございます」
ずっと、イケメンねらいだった

た。と、過去形なのはワケがある。なかなか進まない婚活に焦りを感じ、結婚相談所を探した時、1970年創業の「全国仲人連合会」という堅いネーミングに惹かれた。
早速、訪ねたのが東京地区本部長の日高晶元さん(68)の事務所。一度、聞いてみたかった。どうしたら結婚できるんですか? 「大切なことは謙虚さ。自分磨きもしないで相手に求めてばかりじゃ、うまくいきっこないよ」



大阪・京橋 栄 大橋志さん
若い世代は「他人がかかると感じる。だから説教は逆効果。対話を通してベタな婚活法を探るとい

せられた結婚相手紹介サービスに関する苦情やトラブルは、2005年度からの5年間で1万6663件もあった。詐欺やストーカー事件も絶えない。だが仲人歴19年の日高さんに、過去のトラブルは1件もないという。

まずは自分を客観視

「根っからのお世話好きだから、毎日が楽しくって」
そうニコニコと話すのは、三重県四日市市の南条千代子さん(66)だ。仲人になって「まだ、ひよっこ」というが、すでに16年。数人のお世話を……のつもりで始めたが、今では常時80人

程の婚活をサポートする「ザ・仲人おばちゃん」になった。南条さんの後押しで2歳下の男性と婚約したミカさん(40)。ところが、マリッジブルーに陥った。マフラーが安っぽい、セカンドバッグなんか持ってオヤジくさい……と彼のすべてがしやくにさわり出した。
「ああ、結婚したくない」
彼の父親があいさつに来ると決まっていたら、余計に憂鬱に。もう、やめたい。

「親にうまく断つてもらおうんで、婚活を続けたいんですけど」
そう打ち明けると、南条さんの顔がみるみる険しくなった。「アンタ、男の人に恥をかかせるつもり? わがままもい加減にしなさい!」

んは2カ月後、晴れやかにパーズンロードを歩いた。
南条さんは言う。
「親子って、実は難しい。互いに気を使って本音を言えないことがある。幸せをつかむために、親御さんが言いにくいことを伝えてあげるのも仕事なのよ」
やわらかな物言いなのに、多くの人は、家族を思う母親の顔だ。相談に来る人の半数は、独身の子を心配する親だという。ではお母さん、悩める婚活男女に良縁をつかむアドバイスは?
「男性は女性の容姿に、女性は男性の経済力にばかりこだわる。それじゃダメ。あなたの『お似合いさん』を探せばいいの」
わかっているってば。でも、どんな人が自分に合うのかわからないんですっ。そんな悲

鳴に、大阪市の仲人、栄喬志さん(50)が答えた。
「お相手探しは、自分を客観視することから始めると、うまくいくもんですよ」
「フツー」は思いつき
栄さんの事務所は、母子2代で32年間続く老舗の結婚相談所。1800人以上の成婚者を出してきた。白黒つけて問題解決をする母のスマ子さんに対し、息子の喬志さんは、相談者の話を聞く姿勢を貫く。
「婚活って自分が選ぶだけじゃなくて、相手から選ばれること。カン違いしたらあかんよ、って

東京・高田馬場 日高晶元さん
震災後、バツイチや増えた。「お世話する人はみんな家族」。縁られる神様は、頼られるとげん張り切

気つかせたい」
例えば「小銭をポケットに入れるなんて大ざっぱ」という不満には「大らかな人ね」と。あるいは「あの人、チャラくない?」という相談には「社交的な人やんか」と。そんな具合に、思い込みに固まった考えに対して別の見方を示し、リフレミングを手伝うのが役目だという。ちなみに婚活がうまくいかなる女性の典型例は、「どんな人がいいの?」と聞くと「フツワーの人」と答える人だとか。謙虚な女性かと思いが、違うのだ。学歴もルックスも勤め先も、家庭環境も年収もみんな「フツー」となれば、身長170センチで、ルックスは人並みで、年収500万円くらいで……。
「どこがフツワーやねんって、つっこみたくなるよね」
なるほど! 3人の凄腕仲人から得た極意は「己を知れ」だ。私事ながら、バツイチで婚活中の身にはくつとくる。
最後に、日高さんに「田満な結婚生活の秘訣」を尋ねた。
「基本は五つ。①我慢②理解③協力④ありがとう⑤ごめんなきい。プラスアルファで「愛と情」早く聞いとくやよかつたなあ。



東京・高田馬場 日高晶元さん
震災後、バツイチや増えた。「お世話する人はみんな家族」。縁られる神様は、頼られるとげん張り切

(文中カタカナ名は仮名)